

義仲勳功圖會

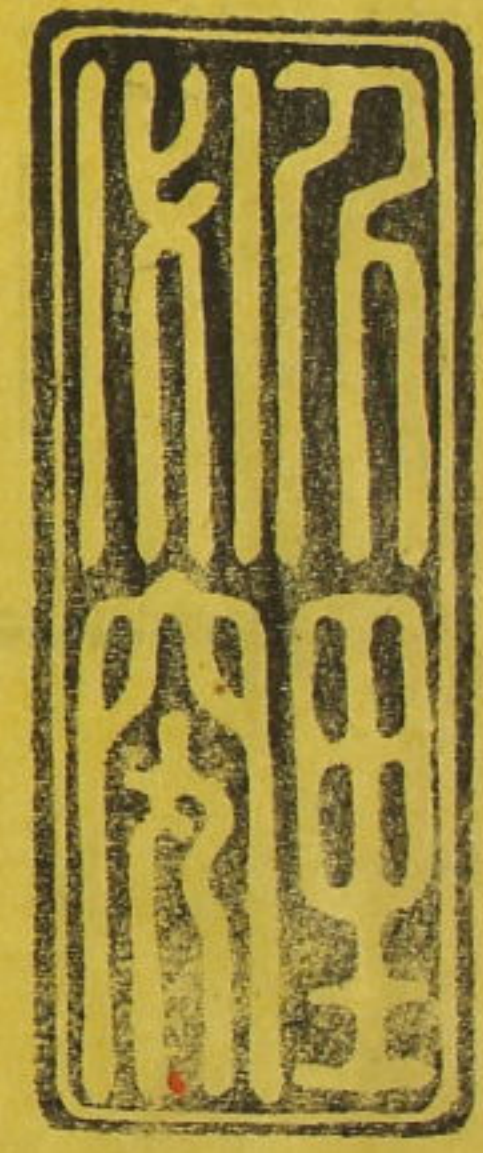
壹

~ 13  
3380



門 13  
號 3380  
卷 1

好花堂主人著編  
有阪蹄齋繡像



義仲勳功圖會

よーりある 久 ほう ぶ 多

京攝書林

積玉圃  
宝珠軒



義仲勳功圖會叙

大正十年八月九日  
寄  
本大學出版部

嘗聞良將之用兵無不正無不奇使  
敵莫測故正亦勝奇亦勝三軍之士  
止知其勝莫知其所以勝非變而能  
通安能至是哉義仲之用兵也亦然  
練卒驍騎行伍齊整決強弱之勢於  
機先運勝敗之籌於帷幄是以所向  
必靡所討必服其神機致等未易窺  
測彼攻笠原之城用其奇計臨資永  
之陣擊其惰歸加之鏖強敵於砥並

功圖會前

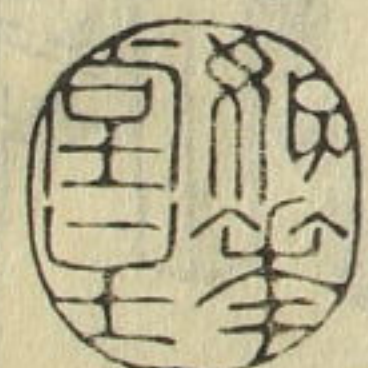
走平族於西國可謂風發河決不戰而屈人之兵者也至今兒童走卒皆稱其功惜哉因行家之譖言親戚為寇讎之念有功不賞令虛有尺布斗粟之譏也嗟呼賴朝之不友亦甚矣向無義仲則假令賴朝倚角之勢既成而中原之鹿豕所輒得乎由之觀是義仲之功亦大矣然賴朝其於親戚如此宜哉父子三世不令其終推歸他人之手政出閨房之中遂開篡

弑之禍是非所謂上以是起又以是終者乎書肆石倉堂曾收義仲記之古本其文辭富瞻叙事似詳而闕如者又多矣益請余因參考於諸史增補是正更加画圖名曰義仲勲功圖會以備童蒙婦女之覽云爾

皆天保龍集壬辰仲春

浪速市隱

野亭外史



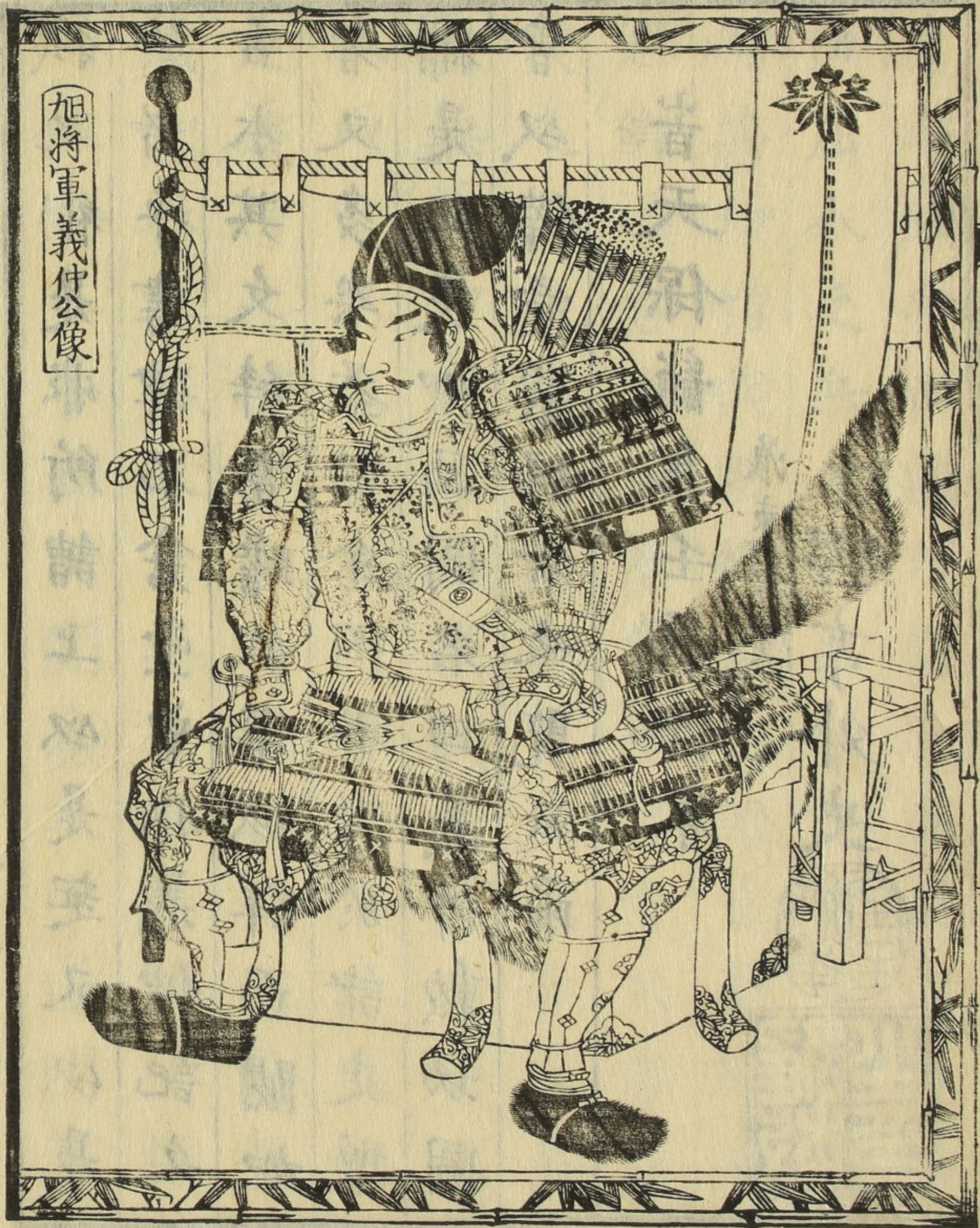
木曾殿立女御前像



木曾殿立女御前

三

旭將軍義仲公像



旭將軍義仲公

三



根井大弥太行親

楯六郎親忠



今井四郎兼平

樋口次郎兼光

新古今和歌集

義仲勲功圖會前編總目錄

卷之壹

幾端 大倉谷合戦之圖

畠山重能救駒王丸之圖

齊藤実盛預駒王丸赴北國之圖

実盛託駒王丸於兼遠之圖

美福門院統崇徳帝之圖

卷之二

為義初衣鎧贈義朝并教訓之圖

新院方敗軍義朝誅父之圖

信西入道義朝の願を拒む之圖

崇徳院於松山配所崩御 大乘經書字之圖

信頼義朝乱逆殺信西入道之圖

清盛父子熊野より都へ馳上る之圖

長田長致弑義朝主臣之圖

志田六郎忠死之圖

悪源太義平伏誅 義平大言清盛を罵る之圖

義平悪靈擲殺難波三郎之圖

卷之三

駒王丸幼推奇行之圖

兼遠駒王丸の賢愚を試む之圖

義仲惟力制奪牛之圖

巴女勇力 義仲主臣巴女が勇力を示る之圖

義仲与頼朝誓約

義仲与実盛對面并義大虎丸之事

義大悪女年茂咬く思ふ綱小園

義仲母公死去 觀心房相義仲

根井大弥太勇力乃園

根井又子属義仲

卷之四

教盛見姪夢并重盛逃去

重盛又の入道が奢移を練る園

安徳帝御即位

高倉宮御謀叛并廻宣

仲綱宗盛が無礼を憤ふ園

藏人行家傳令旨義仲

木曾間者注進宇治合戦

高倉宮之弟宮赴六波羅 日園

高倉宮之四宮北國御下向

讃岐前司将宮山門小登る園

大夫房覚明属木曾

大夫房討判官兼任園

緒國源氏蜂起

権頭兼遠上京

卷之五

兼遠陳謝呈起繕文日園

知盛焼浴板倉城

清盛入道逝去

從緒國京城告急在河野道信之事

河野道信額入道討圖

聖殿川合戰行家敗軍

卿公義田戰死乃圖

笠原平吾討木曾使者

笠原平吾佐原十郎五郎刃傷の圖

義仲智略陷笠原之城

根井大弥太武勇笠原血戰の圖

義仲仁智緒將飯降

義仲勲功圖會前編總目錄畢

義仲勲功圖會前編卷之壹

目錄

發端

大倉谷合戰義賢戰死の圖

高山重能救駒王丸

重能西山の民屋於訪て駒王丸母子を救ふの圖

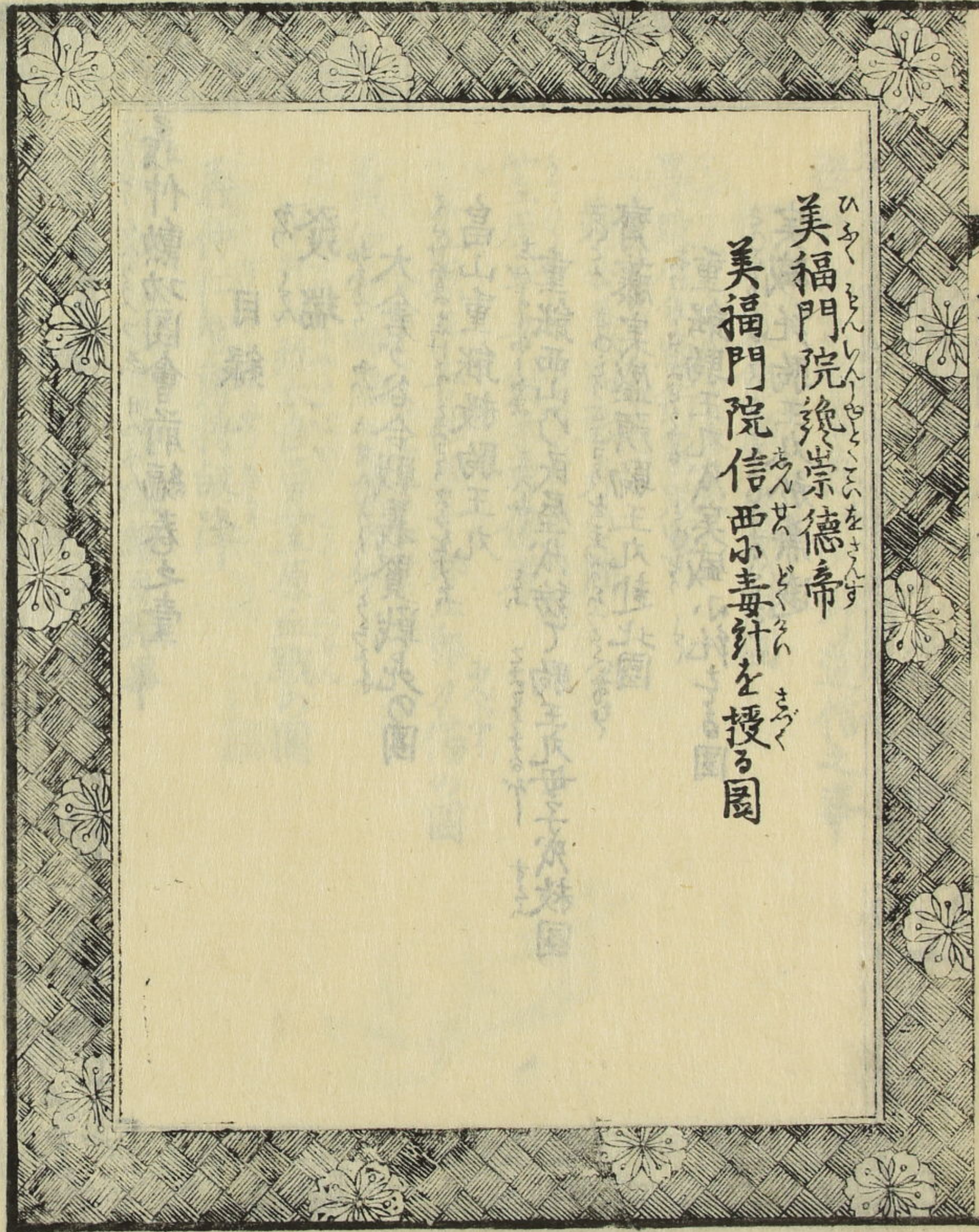
齊藤実盛預駒王丸赴北國

重能駒王丸於実盛小純を討つ圖

実盛純駒王丸於兼遠



美福門院逸崇德帝  
美福門院信西小毒針を授る圖



木曾義仲勲功圖會前編卷之壹

發端

浪速 山珪士信考訂

吾田氏謂る言あり右者以仁為本以義治之之謂正正不獲意則權權  
出於戰不出於中人是故殺人安人殺可也攻其國愛其民攻之可也以  
戰止戰無戰可也と云往昔征夷大將軍從四位下行伊豫守源朝臣義  
仲公しゆみえし其身義次の中より出く一度義旗と北陸道小翻しさるも  
威權隆かき平家乃二門を西海小追下し上帝王の震襟と安んじ下萬  
民乃塗炭を救ひ奇世乃功を立玉ひしが不幸なりと後者の舌頭小妨られ  
若子の軍功水上の泡と消粟津原乃二戦小敗績く一朝の露と消ゆひき  
其故を探る小義仲乃又を帶刀先生義賢とやと祖先八人王五十六代乃  
聖主清和天皇乃御孫六孫王經基乃末裔鎮守府將軍八幡太郎源義  
家乃四男六條判官為義ク二男より曾く又乃命と云武藏国豆胡郡の

任人秩又次郎太夫重信が養子と成り。然小義賢と兄義朝が所領の中鎌倉七卿  
 督領地の芳里と家を遺恨小おの天晴兄義朝が所領の中鎌倉七卿  
 を我有ふせむやと。折小ぬまきと義朝此と然を望むれども義朝も  
 大切の所領をまじり前兼引なく其俸小なりお死々多ふと。義賢大い小  
 望と失ひ快々くと樂まず此上又小紿紹くと望を達せしと都へ上り  
 為義小謁くと所存のむむたを歎死拵らる小。為義も是を許さむと。鎌  
 倉ハ又義家草創の地をば源家の嫡子とて領をまじり許容せざれば  
 義賢深く又を恨むと。理不盡の行迹をが。鎌倉戎押く奪ひしり我領  
 地小せしものと惘望の余も非分の義をせむひささあはぬ跡少く教をま  
 武藏へ飯りく俄小手ろ者どもが驅集武具特々と固まむ其勢都合百五  
 十余人鎌倉まきと打立たり。此事早く鎌倉小おえられ義朝が留守を  
 預り居る嫡子源太義平其頃といふと十七才の総角ながら天性至剛勇

敢う若大将をば大い怒り如何をば叔父義賢人倫の道を弁へて現在已  
 が兄の領地を押領せしと留守を窺ひ押きとる余言緒小絶せし人面歎心  
 くの其義かふ叔姪の因を断敵の寄さふ以前小逆寄しと。義賢が前  
 を捨切らむとと敦園即時小半勢二百五十余人を引率し鎌倉をまき進  
 行噴呼是如何かを妻事とや何とと遺恨もなれ小親た叔姪忽ち敵と  
 の色を顯し私乃同士軍が企ると更小人間の所業小あさ偏小天上破頰の  
 所為ふと。茲小初と源家廢義の線を表せるなるとと後小おひ合とれ  
 々小漢土ゆくと白夷叔世兄弟互小國を譲り大賢の誓が残し和朝ゆくとハ  
 大鷲鶴尊菅道稚郎子同袍互小王位を譲り合聖徳を暉しむひたると先  
 蹤和漢小有と三才の嬰兒とむ御た尊やふおさむとふことあむとむ  
 兄乃所領を奪しと伯叔の命が断んとむとと薄情なりと去程小雨勢  
 相摸國大倉谷小と端なく行合とむ小勢をまき備をまき観合其とれ

源太義平陣頭小馬を跳せ出る。諸人其抄扮を尻ろふ。身小と卯花威の  
 鎧然著し。内毛う兜を頂た。紅梅錦の鎧直垂を著ち。河内内右成が  
 石切といふ太刀と左文字の短刀を十文字小佩こつ。廿四指の切生  
 征箭を管高小肩重藤の弓の真中握り。連銭葦毛の俊足小真紅の厚  
 房の鞞は鏡鞍おれ。あきり。青年といひ美男といひ天晴源家の公  
 達よ。骨柄勇々しくどんん。河内小義平鞍高小突立上り大言小。其  
 御勢と問はども知た叔父義賢との御内人をも。慥小はく玉小報せよ。かく  
 のよ。源義朝が嫡子源太義平なり。粗風説を少。叔父義賢非分の望を  
 幾。事の叶はさ。然憤り。現在親兄の領地鎌倉七郷を押領せんと。父  
 が留守を窺ひ兵馬を指向ら。言を親に親属なれ。変なく進  
 せ。く。あま。奈何せん。父の命令なれ。其が存小。然。其若冠たりとも。父の留守を預る身の。鈍兵卒を領地へ。く。言甲斐なく

叔と。是。出陣せり。叔父且つ非を悔。勢をま。飯園あ。一  
 門の好。必。ひ。穩使の沙汰小。尚強。勢を進められ。止。と  
 得。伯叔。も。国。仇。義平一箭進。と。下。左右。及。各を兼。と。報。せ  
 よ。鞍坪。叩。呼。り。れ。敵。味。方。も。其。弁。舌。の。爽。か。と。其。理。非。の。明。白  
 か。る。小。感。嘆。天。晴。若。大。将。や。と。妹。美。く。女。阿。を。鳴。止。さ。り。義。賢。を。中  
 軍。小。在。る。是。を。受。悪。た。重。が。廣。言。多。元。来。非。道。と。知。く。思。之。我。若。望。何  
 と。重。子。小。鏡。ま。く。黙。止。づ。た。蹴。散。し。通。れ。と。下。知。れ。緒。率。是。非。な。く  
 領。緒。一。毎。小。阿。を。斐。し。矢。先。を。揃。射。け。ら。源。太。義。平。大。小。怒。り。其  
 義。な。る。力。か。り。叔。父。を。一。騎。も。余。さ。と。射。取。と。緒。卒。小。軍。令。を  
 傳。は。く。阿。を。合。一。矢。を。射。違。女。阿。と。矢。軍。小。阿。を。移。と。双。方。矢。種  
 盡。各。抄。物。把。り。蒐。合。せ。互。小。知。合。一。門。の。士。軍。を。恥。を。思  
 ひ。義。を。重。し。足。も。と。鋒。より。大。花。を。散。切。結。中。の。義。平。を



大倉方多見  
悪源太武勇  
先生義賢陣波之図

幼少園會前



薰功園會前

獅子の怒を顕し。三尺五寸の石切丸を抜挿し。敵中を縦横し。蜘蛛手挂  
繩十文字大袈裟小袈裟空弁割秘術を盡し。羅廻を其さぬまがく。魔  
利支天の荒ふまてくかれ。其太刀下小向一者一人くく生を全うし。もの  
なく。屍を横りく。筆を乱し。血流く川をたし。さ。も。勇し。義賢が後年支  
途路小成く。刀をえ。多。ゆ。義平方。勝小兼踏込。多。勇戦く。ち。ひ。く。乃。今  
取高名をを。顯し。多。の。先生義賢を。味方の敗色を。刀。大。小。怒。り。正。多。死  
味方為。鉢。の。門。の。軍。小。珠。小。愧。あ。か。もの。ぞ。隊。を。整。し。く。戦。よ。く。下。知。し。自  
太刀を揮く。近付敵を。前後左右小切伏。羅。伏。切。え。の。緒。辛。よ。く。身。小。房。され  
く。足。並。を。直。し。く。切。進。む。され。も。身。勢。し。の。以。勝。纏。く。多。義。平。が。勢。切。く。の。突。し。と  
も。物。し。の。せ。ま。と。曳。を。声。を。合。し。く。羅。多。く。ゆ。を。義。賢。が。勢。再。以。備。を。亡。續。八。裁。小  
切。亂。され。義。賢。が。憑。切。く。宗。徒。乃。即。亦。残。り。女。小。討。ま。大。將。義。賢。も。數。ヶ。処。の  
半。成。肩。々。れ。今。は。是。ま。く。よ。し。く。馬。より。下。之。武。具。解。捨。く。多。を。義。平。乃。郎

後進二即といふ者。杏小此鉢を刀々。已組伏し。首を取んと。韋駄天。走。小。竟。来  
り。義賢の背より。大。平。成。廣。げ。組。付。を。義。賢。嘲。り。已。不。敵。なる。奴。の。義  
賢。程。の。者。乃。生。首。と。し。く。九。泉。乃。僕。小。召。連。く。多。く。二。郎。が。組。伏。し。と  
あ。か。か。を。事。し。も。せ。と。太。刀。被。放。し。く。腹。小。く。と。突。立。ふ。其。鋒。後。小。組。付。し。二。郎  
背。中。に。突。貫。死。二。重。腹。切。く。兩。人。も。口。一。枕。小。を。斃。伏。ぬ。誠。小。義。賢。が。戦。死。の。為  
鉢。前。代。の。例。を。ば。む。未。代。の。有。命。し。く。も。覚。へ。惜。く。か。ヶ。程。の。勇。將。一。旦。の。意  
地。を。立。拔。無。名。乃。私。軍。小。落。命。有。し。事。よ。と。歎。ぬ。者。も。た。り。多。り。斯。く。主  
將。死。亡。し。れ。恥。を。知。輩。ハ。主。小。後。小。と。敵。と。引。組。差。違。く。死。も。も。あ。り。自。ら  
切。腹。も。も。あ。り。言。甲。斐。か。死。者。も。ハ。八。方。落。失。く。今。ハ。拒。敵。者。一。人。も。あ。ら。ざ  
ら。ず。義。平。軍。が。ゆ。り。勝。陣。を。上。義。賢。乃。駭。を。士。卒。小。罪。持。せ。鎌。倉。飯  
陣。し。先。早。馬。を。り。つ。く。此。義。成。京。都。の。又。が。終。注。進。し。義。賢。乃。尸。小。善。提。寺。小  
送。り。く。惘。小。埋。葬。し。寺。僧。小。命。し。く。厚。く。追。福。作。善。法。管。せ。り。古。結。小。も

虎之三才小一々牛成喰乃氣ありと縋る。義平僅十七歳少く勇武  
 勝一義賢を二戦小討取一事後立恐るべし大将よし。知れぬも其敢勇  
 然と稱一々。されども不義無道もあれ現在乃伯叔を討取一世人是  
 より惡源太義平と八呼りたり。

畠山重能救狗王丸條

抑帶刀先生義賢小二男一女あり嫡子秩又源次太郎仲宗と縋有る義賢  
 存生乃らより兵庫頭頼政が養子小遣一女と氣姫とと義賢が深意に  
 小娘ハ三男ハ狗王とと妾腹小出生ある。後小木曾冠者義伸とやせ八且之  
 其母ハ猫間中将殿乃別腹の姫と名を小枝とよとやせ。天乃なせる容色  
 有るも詩歌管弦乃道小賢一もなれ。父乃々も天暗高家の室家とも  
 なして乙昔と衆と育られし。先生義賢都在番乃折柄加茂の祭拜見せんと  
 行なふ。道上あり。不図彼小枝とを垣間見深し掛想一。其宿を占ん

と刀入隠小付暮々往々小一条堀川辺乃小邸へ車成曳入るれ。扱ハ此  
 と意人乃住家よと縁をり。千束の文を通一々小。姫も其心の  
 切なる成哀小母乃ひ遂小縮船乃のあむとあぬ心を深た水莖小のや  
 小より。義賢斜乃と悦び彼所小忍ひ通ひ深た契成川島の水月とと  
 語合と。通路乃敷を重一程小。小枝との終小維身あり。久壽元年乃春  
 玉乃一乃男子成殺られぬ父母乃悦び大うな。各成狗王殿と呼り。堂乃玉  
 と撫一子乃。塵もとと生一々々小。今年久壽二年八月不意変事出来  
 り。義賢大谷乃露と消一。小枝との歎れ一。是を夢ろ幼くと  
 昼夜紅涙小枝を。余乃との悲一。道小赴を。小平を掛  
 かり。流石鍾愛成狗王との成振捨。世小零落さも悲。生行末を。小  
 中り。死る。小任。愛著乃。小頼。余成縛れ。田。小  
 中小目を送り。小入。告越。悪源太義平。義賢を討進。後

其子息達を生かたむと後世ふかびく又の仇たんとく付担しむむづり。  
 悉く失ふやとく。潜小人を都ふ上。駒王の在所を探りて、何国小  
 も跡を隠し。吾君の難を避むと申超る。一層の患を増是ハ何とせん如何  
 せん。強言ひ又申將殿と高議し。中將殿も當惑あり。當時源家ハ  
 威推強。我々が力もあぶら。所詮扁田舎小隠へ。立忍心より外小絶こ  
 づん手段も有ま。仰むるふを。姫も力なく。泣々乳母が夫の古郷なる洛西西園  
 乃扁辺の異の賤が家小深く隠せ。世乃動靜を窺ひ。然る小何者告し  
 々。此事又悪源太が方へ告えられた。頃々尋出。亡んとて告えたる。茲小自田  
 山庄司重能といふ者あり。縁小付義賢と交り深る。風小此事を漏  
 び。申小ありひるると。義賢一旦の非義小依り義平小付きぬ。其遺子小於  
 くと罪を加ふたふと。義平若氣乃血氣小任せ。武士の暗を去心せ。其身の  
 後難を除くと。嬰兒を亡くと。余勇將小信氣た。行迹なり。彼小人ハ

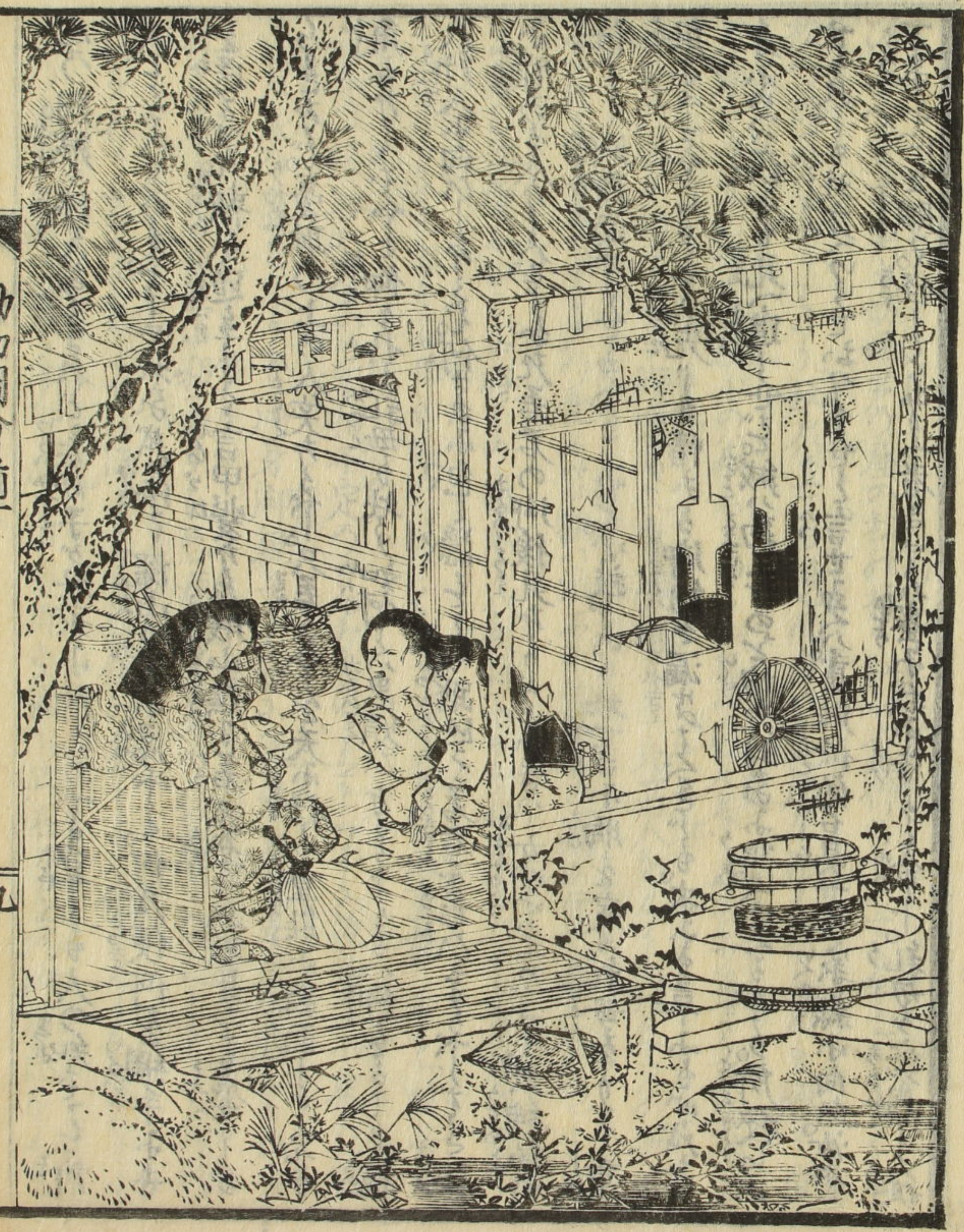
石小八幡のより四代の孫なふのを。二葉小く摘拈さると如何。惜むべ死  
 事なり。我帶刀先生と。門乃因を結び。殊小莫逆の交り。あま何卒義賢が  
 追福作善。乃為彼若を助け。育むと。わひと。腹心者小命。其行儀  
 を尋ひ。自中將の方。却た。面錫。暗小所存の程を。分明。姫乃所在  
 我尋。乃中將。乃初。義平。手成。廻。重能小命。伴。情。くも  
 て。姫の隠家。探。探。白地。小告。重能。再三。実意を  
 告。問。中將。殿。今。疑念を。暗。西園。乃扁。辺。云々。乃家小隠。在。御  
 身。乃御。御。何。小。駒王。乃命。成。助。よ。北。乃方。乃。小。雨々  
 と。泣。頼。重能。領。某。斯。上。一。命。小。代。乃。御。親  
 子。乃。御。命。を。助。進。せ。其。儀。乃。露。乃。御。心。を。勞。乃。小。勿。を  
 と。誓。乃。又。乃。嬉。乃。重能。乃。仗。拜。乃。即時。小。消息  
 乃。忍。乃。渡。乃。重能。乃。腹。中。乃。中將。乃。小。別。を。告。乃。其。夜。直。乃。西。乃。園。乃

尋行小使の隠家小到王たるに至り男を難ふやと立出くは由有  
けなる武士の二人の僕成おるを王の男心中大の訝りける武士  
の夜中我方の尋の来るに姫君若君の隠居を辨ふ者有り  
る。悪源太どのと申すの召捕小指超まゝふやとありひるが先胸はづれ心  
億しそ更ふり処をあらむ。惘果るに面色なり重能小声あふ。我を猫  
間いの御消息を持参せし御使を小技どの八宿小御坐ふやと問主を  
弥心うさひ中將の御使は平日仕丁重或る女房達こそ指超まゝなる  
気疎た武士を御使小遣しむと絶るなり。是を弥怪しとありひるを  
空とやけし。否々此方ふはさふん在るに猫間どのと申すも未知まゝぬ名  
定る宿の違ひいふこそ他の家を尋まると戦慄しひぬ重能心可笑此男  
愚直の田夫ゆ。我を方々の射人なりとありひるを更ふこと深く包めるあり  
に。されど此家小紛かたるに己小主の面色音声ふ表れりと思惟し。

猶も刃を和みゆと夜中といひ我々が為軀を片々一應疑と理りなり。今ハ  
何なり包す。我は白田山重能と。故帯刀先生と親族なり。然る小鎌倉の悪源  
太どの帯刀の遺孤を亡くと。草草か尋捜まゝを更。我親族の身と  
し。其患難を救まらむ。武士の義不悖。且故帯刀對愧る處なれ。在  
京を幸ひ駒玉の母子の危死を救ふ。今日又の卿の許推参し。心底を明し  
御消息を賜りし御使小参るなり。此家小忍び御坐すと早う射人の者有  
る。悪源太どの方さま。今ゆあは射人の来まらぬあり。然ありてハ  
我も水の泡と消駒玉の御命も助りまらぬ道あり。疾此消息を小  
技どの承呈し。我は對面あるに計ひいと利害成鏡と繪し。れに主の男。悪  
源太の射人の向す。更々信あらぬ。重能が刃を由尚半疑。半信し。角  
決まらむ。能む。忙然と居たり。所狭た賤が家居なれ。小技どのを  
一間小居と先りの重能が利害を皮乳母小向ひ。やされ。今重能と申す

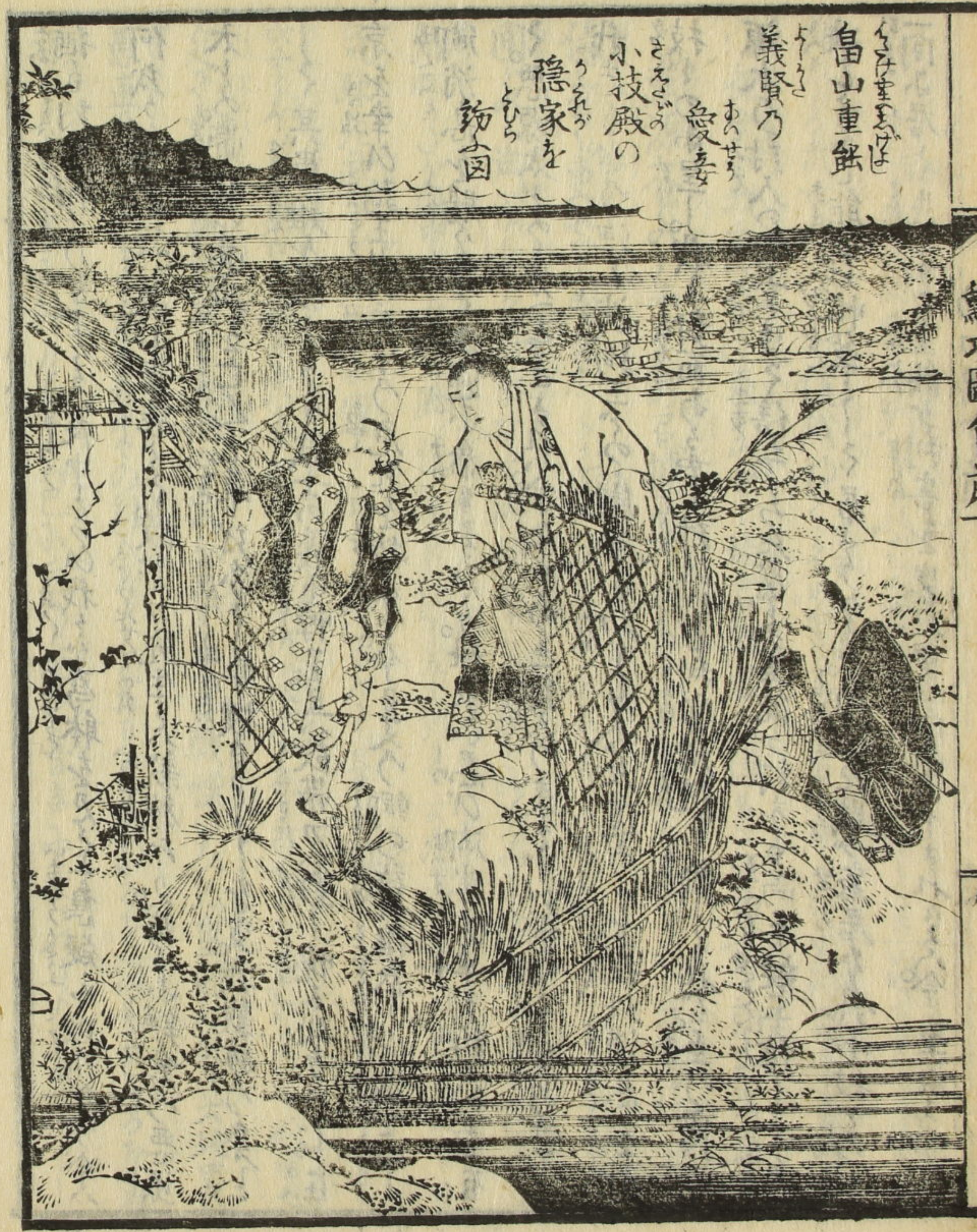


幼刀圖



島山重徳  
 義賢乃  
 愛妻  
 小枝殿の  
 隠家を  
 紡糸

島山重徳



しつ約絨しつやくじゆうを詐あやまるるあつとされど、妾めかけ母子ぼしが、此家このうち小隠こかく志こころのぶるも、早はやうも人の知しむと辨わ人ひとも、人ひともあまきより、や此家このうち成落なりおちる深山ふかやまの奥おくも忍しのぶも、何なにか使つか何なにを綱つな手ても、せを送おくるべし、頼たのみ通とほる、言こと甲斐かひなれ、賤山せんざん推おし小若こわがを、此身このみをも辱おとしし、らまを、憂うれ耻ぢの上のうへの人ひと笑わらふ、只ただ若わかが命いのちを天あま任まかし、重能ちかひ小對面こたいめん、く免と角かくも、仰あやせ、乳母ちちも、此この如何いかも、思煩おもひづひ、若君わがきみを亡なし、彼か人ひと對たい人ひと小向こむかひ、何なにき、小包こつづも、踏ふ込こむ、若君わがきみを亡なし、緘せき小情こじやうある人ひと、若君わがきみの御後みご見みたり、女おんな心こころ小定こさだめ、只ただ神かみ小任こまかし、御對面みごたいめんせ、小技こぎの、此この一言ひとこと小胸こむねを定さだめ、乳母ちちをり、重能ちかひ小中こちゆうせ、先まづより情じやうある御約みごやくを漏はせ、木き小草くさも、心こころ小疾こしやくも、見み進すすむ、緘せき小狗こいぬ玉たまの、抱かかれ、此この小隱こかくへ、所ところ狭せまく、せ、此方このあたへ、言ことせ、重能ちかひ依よひ、召よ具ぐせ、家いへ録りやく小向こむかひ、汝な小万ま事こと小心こころを賦あづけ、怪あやし、と、者ものき、小告こつげと、命いのち、乳母ちちが、案内あんない、從したがひ

ひ、入い分ぶん、小実こみも、妨さげ嫌きら若わかの屋やの松まつ柱はしらも、斜かた小直ちか竹たけの篁あし子こも、凹くぼく、肥こ松まつの燈あかりゆ、板い戸とも、透す回まわり、夜よ風かぜを、防ふせぐ、枕まくら屏びん風かぜも、破やぶれ、其その影かげ小技こぎの、何なにも、色いろあ、定さだめ、衣きぬ小若こわか者もの、狗いぬ王わう殿どのを、擁かか抱かかれ、物もの小倚より、御坐みませ、重能ちかひ一ひと揖いさ、先まづ其人そのひとを、此この年とし月つきの物もの思おもひ、天あまの生なる容よう貌ぼう小流りゅう石いし小端はた雨あめも、雨あめ小落おちる、芙蓉ふよう小風かぜ、故こ帶たい刀たう、故こ帶たい刀たう、先生せんせいの、縁ゆかり跡あとの者もの、采さい枯こ不定ふじやうの世よの、小流りゅう流りゅう落おちる、年とし月つきの物もの、小黃こわう泉せんの、容ようと、御身ごみ御親ごみ子こ、世よ小流りゅう流りゅう落おちる、年とし月つきの物もの、社やしろと、察さつ、小相さう親しんも、惡あく源げん太たの、身みの、後あと難がたを、除のぞく、小人せうじんの、行ゆ、傍かたを、探たづね、七ななと、其その親しん族しゆくの、身み、他ほか小忍しのび、小人せうじんの、危あや敷しを、救すくひ、進すすむ、御ご又また中將ちゆうしやう御ご小緝せき、御ご在あ在あ所ところを、向むか御ご消しょう息そくを、乞こひ

得く持参仕まり。是御覽し重能小野心方れ。我知召し。彼消息を  
 呈し。これ小枝の公會秋。是是年ふ。封押切。續下。彼の色面小  
 現。嬉涙押拭ひ。重能小向ひ。世小使。親子。心掛。危難  
 を扱ひ。玉。鳴息。何の世小。報ひ。双自髪。未。頼めて。一  
 帯。君小別。疾。七人の數。夫。迹を追。思。此君の  
 何。成。死。事。心。任。せ。独歩。生。惜  
 命。延。内。悪源太の執念深。君。命。亡。の  
 せ。又母の許。任。得。水鳥の陸。心。地。一。く。鄙小  
 身を忍。昨日今日。日。送。今。敵。搜。出。り。や。乃  
 透。同。風。音。友。呼。大。色。小。一。向。胸。の。蜜。女。心。も。さ。さ。り  
 小。思。頼。母。死。人。小。遭。ま。さ。ま。嬉。さ。よ。是。偏。小。若。が。命。運。強。く。遊  
 去。亡。丈。の。守。ま。ふ。こ。と。又。雨。と。亦。泣。初。り。重。能。を。疑。ひ。左。右。三

紛。主。男。も。よ。く。小。心。安。堵。今。重。能。小。面。目。を。失。ひ。茶。よ。菓子。よ。そ  
 乳。母。と。り。小。追。従。も。衣。なり。重。能。稍。寄。駒。王。の。森。自。を。守。り。そ  
 嘆。息。襤。褸。の。裡。を。離。き。ま。ふ。れ。又。君。小。く。も。似。ま。ひ。自。威。有。く  
 猛。死。將。相。を。備。へ。玉。り。願。く。人。と。なり。萬。卒。乃。上。小。立。又。君。乃。汚。名。成。雪。死  
 小。と。統。一。括。抱。死。れ。駒。王。の。も。目。覚。重。能。が。面。成。亦。守。く。完。示  
 と。笑。ふ。小。ぞ。重。能。跡。哀。憐。の。心。成。増。若。と。母。公。小。渡。一。扱。中。某。く。尋。参。し  
 上。之。片。時。も。苗。所。の。御。任。居。無。用。かり。直。小。私。郎。へ。伴。ひ。よ。せ。り。疾。々。と。忙  
 せ。小。枝。の。も。飲。び。小。堪。む。何。是。乃。物。と。り。締。め。乳。母。と。俱。小。立。出。む。む。重  
 能。之。至。乃。男。小。固。く。口。止。し。後。者。小。前。後。を。守。り。せ。く。母。子。成。伴。ひ。躬。乃。私。郎  
 六。条。大。宮。へ。皈。り。ま。す

各藤実盛伴駒王丸北国條

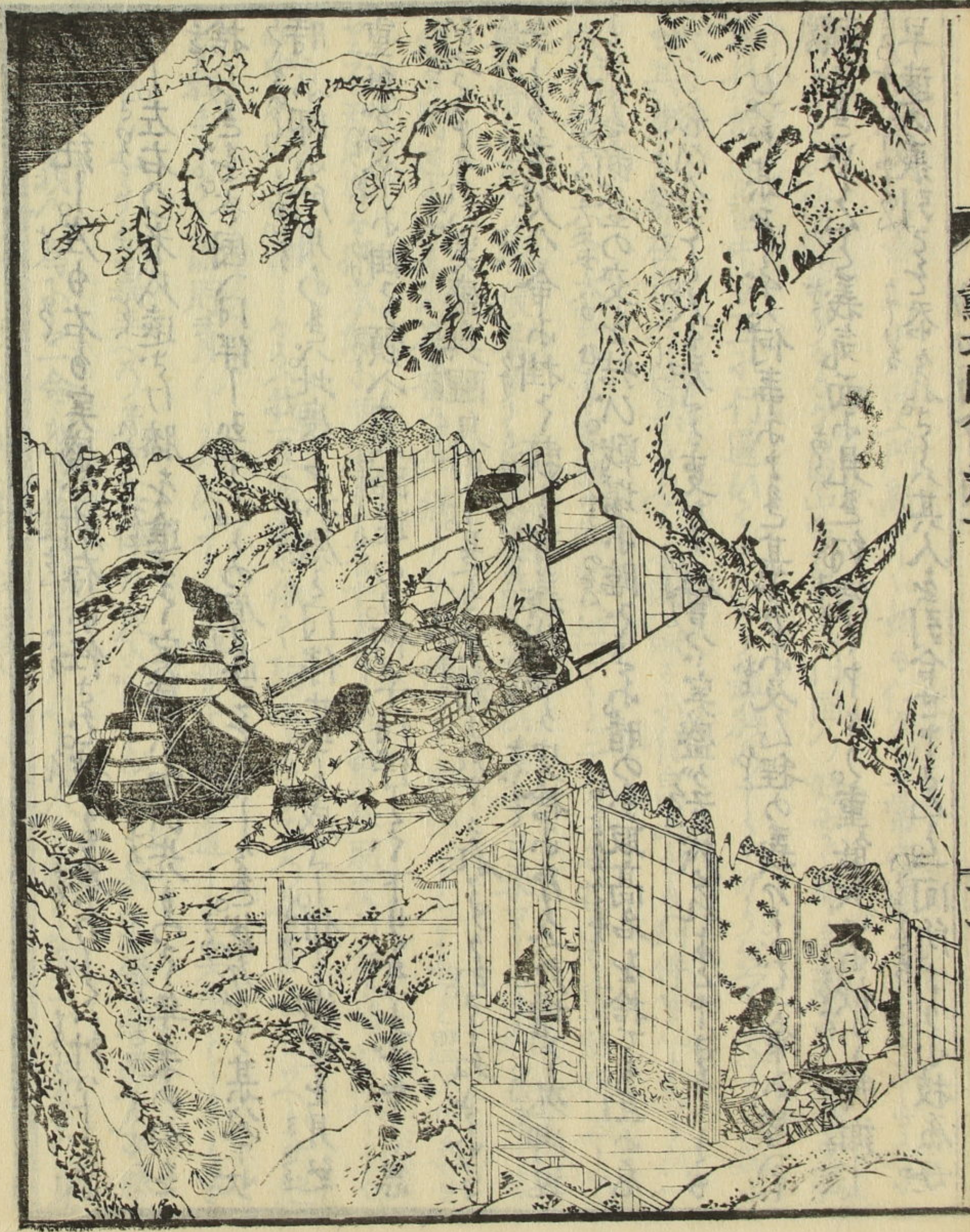
茲小武藏国永井乃任人小各者一即太夫実盛と一武士あり。天性至剛沈勇

ちく。弓矢兵器とて一向所敵なり。然も仁義五常の道を弁(智)才も人小  
 勝まじき俊傑なり。多るが畠山重能と曰国の好む。年来隔なく交(交)互  
 する。都在番中も互(互)行通ひ。さかぐ親族のつてたり。然も今年畠山  
 由其身も都在番の任果(果)れむ。本国(飯)る。付畠山を由(由)伴せしとあり。一  
 僕(僕)成後(後)六(六)条大官(大)なる重能が邸宅(邸)往(往)くと云(云)入(入)る。折(折)よく重能(重)在(在)宿(宿)して  
 奥(奥)緒(緒)互(互)の寒(寒)暖(暖)畢(畢)り。后(后)実(実)盛(盛)畠(畠)山(山)向(向)ひ。某(某)今(今)日(日)来(来)り。と別(別)り。なると  
 我(我)も御(御)辺(辺)ゆ(ゆ)り。小(小)在(在)番(番)の任(任)満(満)れむ。曰(曰)伴(伴)り。本(本)国(国)下(下)らる。と思(思)ひ推(推)察(察)せ  
 里(里)。不知(不知)御(御)辺(辺)と。授(授)京(京)師(師)小(小)要(要)用(用)む。有(有)やと。これ(此)重(重)能(能)朋(朋)友(友)の厚(厚)情(情)を謝(謝)す。  
 心中(心中)小(小)恥(恥)と思(思)惟(惟)り。多(多)る。我(我)且(且)の義(義)小(小)依(依)り。狗(狗)王(王)の母(母)子(子)の命(命)を救(救)と。り。ゆ。也(也)  
 も我(我)年(年)少(少)く。隱(隱)貯(貯)育(育)ん。り。叶(叶)ひ。ぬ。お彼(彼)母(母)子(子)を曰(曰)道(道)り。と実(実)盛(盛)と。り。り。本(本)  
 国(国)下(下)らる。り。も。義(義)平(平)のり。ま。え。其(其)憚(憚)り。れ。み。あ。む。と。幸(幸)ふ。実(実)盛(盛)ハ。智(智)勇(勇)人(人)小(小)勝(勝)  
 是(是)殊(殊)小(小)義(義)の。為(為)ふ。と。一(一)命(命)成(成)也(也)。抱(抱)れた。武(武)士(士)か。れ。む。此(此)人(人)を。頼(頼)り。狗(狗)王(王)の。母(母)子(子)の。身(身)

の上(上)を。純(純)し。左(左)も。右(右)も。実(実)盛(盛)が。所(所)存(存)小(小)任(任)さ。む。彼(彼)も。由(由)為(為)あ。り。と。ハ。針(針)ハ。ト。思(思)  
 惟(惟)し。左(左)右(右)の。者(者)成(成)遠(遠)ざ。け。膝(膝)を。進(進)む。と。実(実)盛(盛)小(小)向(向)ひ。先(先)り。と。年(年)来(来)の。好(好)を  
 捨(捨)ら。む。と。本(本)国(国)曰(曰)伴(伴)り。む。と。の。厚(厚)志(志)を。喜(喜)む。と。也(也)。然(然)を。か。ぐ。某(某)ハ。今(今)女(女)  
 時(時)京(京)師(師)小(小)所(所)用(用)あ。む。と。此(此)度(度)と。和(和)殿(殿)と。曰(曰)伴(伴)せ。と。成(成)が。り。但(但)し。御(御)辺(辺)を。見(見)せ  
 重(重)能(能)が。一(一)命(命)小(小)掛(掛)り。頼(頼)入(入)る。路(路)連(連)あり。何(何)卒(卒)曰(曰)伴(伴)り。と。下(下)り。む。と。む。と。思(思)  
 ひ。へ。く。と。れ。が。実(実)盛(盛)真(真)醒(醒)自(自)り。と。是(是)と。更(更)新(新)し。れ。と。な。れ。と。ふ。と。ふ。と。な。れ。と。ふ。と。弓  
 矢(矢)と。る。者(者)ハ。人(人)の。命(命)小(小)掛(掛)り。頼(頼)と。有(有)義(義)成(成)争(争)り。と。捨(捨)れ。た。増(増)と。况(况)御(御)辺  
 と。某(某)と。斷(斷)金(金)の。交(交)を。結(結)び。戦(戦)場(場)小(小)臨(臨)む。と。小(小)暗(暗)の。分(分)取(取)高(高)名(名)を。捨(捨)て。も。互(互)小(小)危  
 死(死)を。救(救)ひ。合(合)こ。し。人(人)も。知(知)ら。ず。更(更)なり。譬(譬)ふ。実(実)盛(盛)が。首(首)成(成)れ。と。と。や。さ。り。と。し。も  
 清(清)む。と。れ。某(某)なり。と。ず。何(何)事(事)小(小)も。と。某(某)か。小(小)及(及)し。程(程)の。義(義)なり。と。む。一(一)命(命)小(小)替(替)へ。り  
 頼(頼)ま。む。と。い。と。と。義(義)気(気)面(面)小(小)見(見)せ。切(切)清(清)く。と。り。重(重)能(能)大(大)小(小)仰(仰)り。拜(拜)謝(謝)し。  
 早(早)速(速)の。承(承)引(引)を。と。希(希)々(々)れ。と。と。其(其)人(人)を。引(引)合(合)せ。と。と。一(一)間(間)所(所)より。小(小)技(技)屋(屋)母



幼幼園會所



薫刀園會所

子成伴の出扱実盛小向ひ此夫人小児こそ只今重能頼よりと路連ふ  
 を斯と針ひひと不審しむ心今何を隠べ死是こそ故帯刀先生義  
 賢の遺孤狗王の在り母御前なり曾と悪源太義平との身の後難を  
 慮り暗ふ亡くとせざるよの風貌をば重能縁縁の身とて他小刀々々  
 びと隠家へ尋りて迎へ飯りされども逆も我手ゆく育んとせむ小人の為宜  
 しく思ひ難成頼てり託とてたは是乃こ小心を著りし小御辺本  
 国へ下とてぞかむ願てもかた幸なり足手まゝひなむとぞ何卒丙  
 所を伴ひ下り左も右もしく恙なく成長あるや針ひむくバ生るべき  
 鳩思とて下とて涙を流しこそ無據よのゆふあど小枝のゆふ涙ふれ  
 り身如何なる艱難小遭とてふ厭ひさむるを野乃末山の奥あくも若  
 乃成長とて死やう針ひむくりいと堂成合せく実盛を伏拜とて免神を  
 も手捕ふとてた実盛も重能が義心小枝の心中を推量り不覺の涙ふ

袖を沾りたるが猶掻きもひく重能小向ひ和殿を武辺ふの猛く勇る武士と  
 かりひし小情乃道小もさ深りたるまへも御兩所の危難を救れり  
 帯刀先生一旦の過小其身を亡くせむも何ぞ根を断葉を枯と程の罪右  
 し此小人も正しく八幡のより四代の孫君なり争が情なく強縁の内あく亡ひ進  
 らば心安れ御兩所の義と和殿代りて実盛頼り人となり進せんと一儀お  
 も及む承引りたれむ小枝のゆふ更なり重能も雀躍しと悦び勇る深く  
 実盛が情を謝し酒肴を命りて盃を取らり献酬交々主客稍酔を帯け  
 らむも実盛と別を告其夜小枝の母子乳母をも口道し我邸宅へ飯り多  
 かり実盛心中小借思ひ廻りて本国武藏を悪源太とて武威小摩死珠小彼  
 人乃家人多たれむ狗王の成貯ひ育る小便宜とて守萬一此妻義平との方へ  
 池皮と奪捕まて重能小誓言し大丈夫の一言相まむとて不連家城小立堂電り  
 狗王の征兵を引結りて三度五度追拂も遂に防禦叶ひてとて光武

士乃義小依捨命八秋毫下りも怪しとつ下も彼人の命を救ふと何乃詮  
 りのんとの奈何とく萬全の策を得たるといふの實盛思惟心成困り  
 忽ち恥と案を出しとるも木曾乃中三権頭兼遠と兼之乃入魂といひ彼  
 弱を扶け強を凌ぐ義者なり其領地他所小勝り山深く幽栖の地なり  
 む。狗王の隱家小幸竟竟のりなり。彼母子を純せんかの兼遠の外小有  
 へふすと胸を定め二兩日まじ。終小狗王殿母子乳母を誘ひ後卒を幸ひ  
 深夜小都成至北陸道を志しとど赴たると時ハ是久壽二年臘月十三日乃  
 事なれむ。北国のかゝ道中雪深く寒風肌骨小徹く血氣社人なる男ま  
 じも堪ぐた小技ぬい父母乃鐘愛深く深慮小兼之通地王の花見小  
 倉の紅葉狩小出中ふも典車小技棄らむ。陸地を歩と多し一更もたれ小  
 時世小變りなりひと。人成忍び縁なれ士卒乃射小身を扮装しと。實盛  
 が後卒小亦交り履も押さ草鞋脚平小足を痛くゆささる月苦りた

小雲嵐小身成悩され厚氷小足を裂き行路を朱小染をけ。殆歩煩ひ玉  
 小實盛余りの痛くさ。後卒小命と替る小負進せ。官路を志たり  
 抑中三権頭兼遠とつら。其身中原氏乃三男も成り。昔人木曾乃中三  
 と八叔も累代信列筑前郡木曾小住居。八幡太郎義家小殊小厚恩を  
 蒙り一人なり。其任地岐嶺といふ。和國無双の峻山なり。東上野武藏小續  
 丸。西も飛彈小隣。南ハ美濃路。北も越後出羽小近。四方四日路小余り。長  
 山重々として連り時。天竜筑前乃大河を帯。谷深く棧危く。官木榎芥の音  
 幽小。往及乃人迹稀小。我々も小巖疊々として。小肝寒く。嶙峋  
 幽溪雲霧絶ど。臨小魂消む。尾成起り。尾小向ひ。洞を出る谷小。い  
 困拙乃僻地中。彼漢土乃巴蜀小比。た要害なり。これを後後小慮り其  
 善所を得たりと。去程小實盛と道中滞り。木曾小着。兼遠ケ

邸宅ふかりむれど斯と案内にされど兼遠即時小立出呼瑠々一や毎後  
 氏々々寒冷の時節。素雪成るるの入来。何更のいふや。先彼処下々。後者  
 小命しと洗足の湯を勧め。客屋小清く茶菓成るるなり。主客の座  
 定り別来の素情を述べ後兼遠実盛小向ひて曰。人緒る処女性嬰児を伴  
 ひ雪中成厭ふとくふ僻地。来臨有ると何れを子細のいやと問はれ。実盛  
 答く曰。御不審むふ。今般某都在番の任終り。本国下り。路は横切て  
 當家へ推忝せ。貴辺の義心を見込。密に頼へ。子細いかり。則ち此女性を  
 去ぬ。八月相摸國大倉谷中。落命有。帯刀先生義賢の發妻小枝  
 どのふ。乳母を抱々。嬰女子。義賢の遺子。狗王のなり。並ふ。惡源太義平  
 後世其身の害ふとやと。此若成尋出亡と。謀られ。子を昌山重下  
 早の危難を救ひし。尚録倉の。安ん成。悍。某小娘育の義成。附託  
 せり。然るも。其領所。も。鎌倉。遠く。源家。旗。下。追。ひ。氣。満

されど。終ふ。更。の。池。へ。と。治。定。け。れ。貴。辺。成。頼。と。娘。育。の。義。を。託。せ。し。為。り  
 可憐。武士。の。情。を。かり。娘。ひ。ま。と。娘。子。し。の。か。む。り。大。莫。大。の。鳩。目。し。と。  
 遮。遠。成。長。の。後。言。甲。斐。け。人。を。も。家。人。と。な。し。或。も。出。家。入。道。せ。り。又  
 祖。の。後。世。成。も。吊。り。せ。り。と。言。を。盡。し。頼。と。や。え。な。れ。も。兼。義。小。勇。と。物。乃  
 哀。も。兼。遠。重。能。實。盛。が。義。心。を。感。慨。し。曰。昌。山。と。い。ひ。御。辺。と。い。ひ。武。名  
 天下。小。集。り。英雄。の。仁。義。の。道。と。浅。く。ね。情。の。程。と。難。有。り。兼。遠。を。扇  
 鄙。の。田。舎。武。士。も。思。さ。し。人。を。し。思。ひ。く。遙。々。と。頼。来。り。と。言。嬉。し。さ。し。聖  
 人。の。義。を。見。て。せ。ら。る。と。男。を。と。直。り。御。辺。を。頼。と。あ。く。も。假。令。匹。夫。下。賤。の  
 子。ま。り。も。争。う。違。背。と。死。増。々。況。我家。小。大。恩。を。蒙。り。も。八。幡。の。嫡。孫  
 帯。刀。先。生。の。公。達。を。ば。我。方。より。乞。望。す。も。預。り。を。り。度。義。か。り。娘。子。か。ど。ハ  
 い。も。恐。惶。守。育。進。み。主。君。と。仰。れ。ま。し。と。喜。悦。の。色。面。小。見。ま。二。義  
 小。も。及。び。ず。兼。引。し。乳。母。を。迎。ひ。差。倚。り。狗。王。の。面。を。熟。造。と。か。ら。涙。さ。し



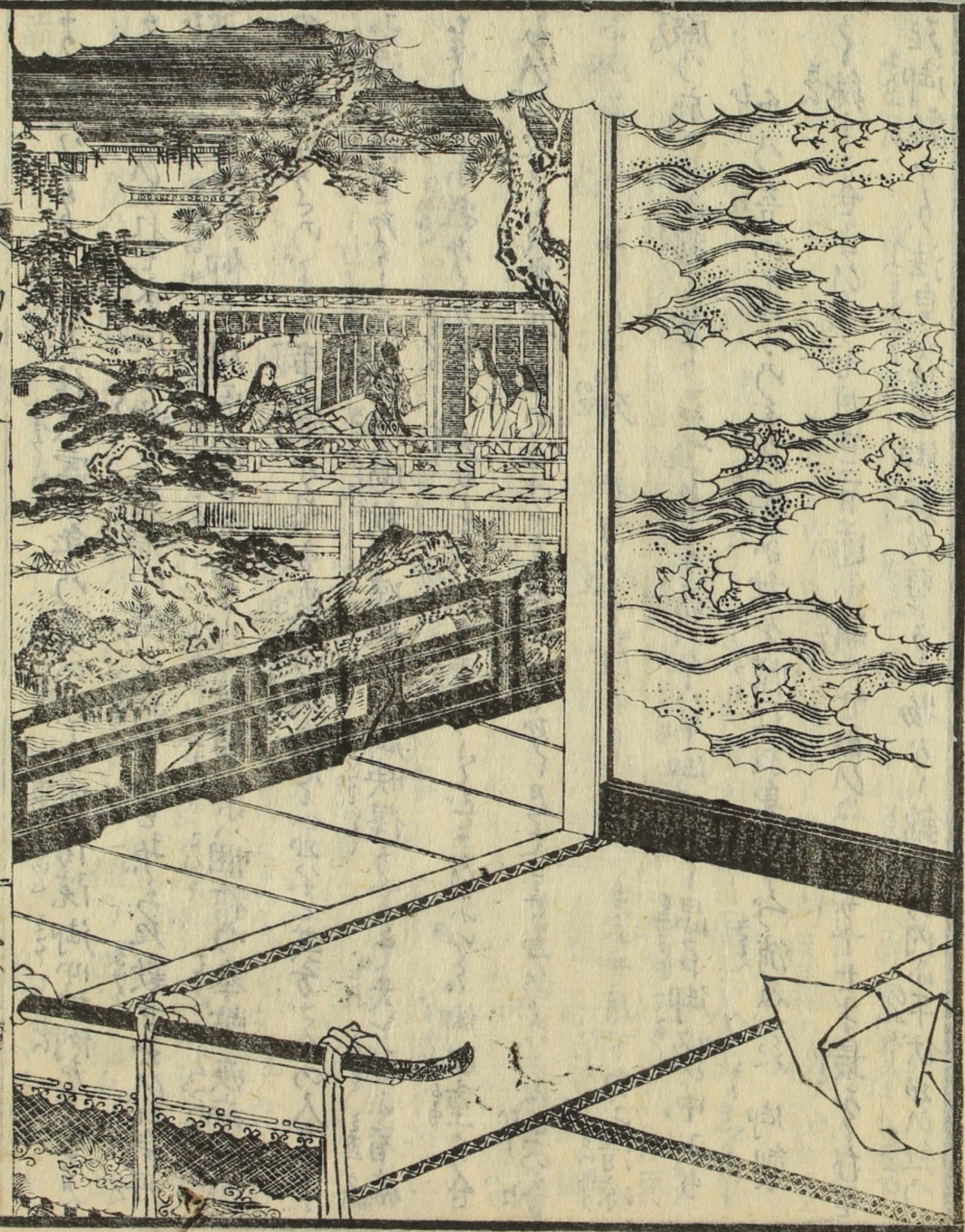
〆〆〆曰天晴若君の相貌乃威高き玉石之瓦礫と混むるも八幡殿四  
 代の孫君と二月夕々々不著明を可憐又君の世小在バ錦繡小纏久深窓  
 小守傳れ荒れ風の中りむら成不慮の珍事出来さるも名將の公  
 達の膝を入る地なきる扁鄙深雪成食吟ひききり痛くさよざ  
 くれ富山小隠き御坐む御身の上世小油ふしと決しと盛衰博愛人  
 倫乃常なり天運備還し往々及さる更なり皆時を氣疎死深山住ぬ  
 憂光陰を送りゆとも傾人成む執意起躍の時を得る和漢小名と  
 裏くと程の大將軍成む成長の人ふり如く搔口鏡木曾山育の荒く  
 武士も男泣ゆを泣下る小枝よ始め実盛も即坐の領諾を限なく悦び始  
 る安堵のまり成なり厚く礼謝及ひたり兼遠を悦乃余酒宴成促  
 し長途の旅前成慰も猶駒玉の行末の更ども成商縁しり実盛と  
 木曾小夜滞留し翌日別を告ぐ立出られ兼遠も強くを留め式守進

送り出ぬ小枝よの殊小別を惜み日來の厚情成るもくも謝しおひ又母  
 小別ろくく後成り理りなり実盛種々小練諭し何是のし言教く遠  
 小木曾成立出尚隆増る雪踏めて武藏へとさむたる是下り中三兼  
 遠と駒玉の母子を得る王君のく傳死山下と所小新小邸宅を造  
 り設け両方成是へ移し侍女近臣とく給仕を衣服調度の類とく  
 更かり萬の物足とねりなれなり心成賦を執賄しを小枝よの厚く  
 兼遠が信義深情を悦ひむ今まら怖畏のさひ成忘る口管駒玉の  
 日小増る生立む成樂も兼遠成のく京乃及乃母君の許し身の安  
 然なり成告をせむひく中將の母公も人れを悦勇を折小触てハ  
 消息取通り孫君の成長しゆ下り成老の寐覺容くを思ワるる  
 美禰門院逸崇徳帝條  
 久壽二年も程なく暮る翌年改元のり保元々年と改め二をれり

小其年都八新院本院乃御争ひ出きりて源平両家の人々御所方新院と  
 と引分せし又子兄弟叔姪忽ち敵となり互小鋒尖を争ひ錫を削つて和漢  
 びを例を定むる大乱と云ふなり其濫觴を尋る小先帝鳥羽院去る保安西  
 年正月廿八日御壽二十歳なり第一乃宮頭仁小萬乘乃宝位を讓らむ  
 後小是武崇徳院も後継院もやなまの六此君なりされも天下の政勢は鳥  
 羽法皇皇位に糾させぬ夫より又星霜推授りて保延五年五月十八日鳥羽法  
 皇乃寢妃美福門院各の得子左大臣  
後原長実公女乃御腹小皇子體仁御誕生御誕生りてこれ以上  
 皇の御悦び斜ならずと御寵愛の余り春宮小立させぬ天晴人とならむ  
 十善乃帝位式副さむやの睿慮出来させぬ此電妃美福門院其  
 容貌端麗ゆ衣通小町も面を覆ひ王照施西も法不愧て死程の美夫人女  
 さいの其内心晋彊妃凍乃夏妃が如く性ゆへ妬心深く奸毒乃女姓なれむ  
 皇子御誕生在り日とり天晴當今小御過も法の法皇小やと御位をせむ

腹小降誕有し皇子ハ十善萬乘乃天子と仰た育國母の權を禮せし心の  
 伶小栄花を覽んと惡念茲小萌し時々當今乃御行迹を惡まぬ奏し  
 且當時乃博士とせし女納言入道信西をかろし其身の宿望を達せん  
 と種々惡計を合せらむを怖らるれば浸潤乃潛行われ層層受り  
 懇遂小成るさも息明睿智の法皇も美福門院の嘗て信西が罪弁小惑  
 されぬ當今を惡く疎んじ遂小永治元年乃冬十二月何乃過失もやむこと  
 ぬ當今乃宝位を下しせむも崇徳院の皇子重仁親王成りて退  
 る總三才小をせし美福門院乃御腹乃宮成帝位小即ち是を近傍  
 院とせし是より鳥羽院を本院と稱し崇徳院を新院とせしなり矣  
 ゆさせり御過りて帝位を下れ玉ひて新院乃御憤り深く是皆継  
 母美福門院が小信西入道ボが後奏の所為なれ如何もしく此惡を  
 報せしやと日夜の御爵念絶るるなり願志乃婦小胸を焦しむと理也

功の園の景



十九

美福門院  
小納言信重  
心合せ  
新院を継  
奉る因



美福門院

まゝ痛りくり。扱其後久壽二年の夏の比より近衛院御心地例なり。見えさせぬれを本院を始り美福門院も斜かきとせぬ歎せぬ。和氣丹波の典薬頭小御医療忘りなく。緒社緒山小畑新の奉幣疾病即滅の御修法。そのごとく事嚴なれども。路其強もよくとせむ。其方々の人を八手小汗を握りたり。三伏の夏過秋の涼風を御快復りやとて。夫と頼小者病なり。なほ小程なく九夏の天もとれ。秋立雲のよどみいづも。御脳重らせぬ。おれをいふ病の色小はけても。頼もとなく。いふとせむ。いよぬ魚の音小御身を比へたり。残る暑の堪げ小りのせむ。七月下旬小清涼殿の座の小移り。なりぬ。帝今早御心細く思召御悩の中。小魚の音のよるり。過る秋を惜む。糸身をよぶ。消ぬ。御製。縁トさせぬ。七月廿三日遂小崩させぬ。室等十七才最をむ。御齡をり。法皇女院の御歎。死言る小物なり。錦帳の内小平伏ぬ。紅の

涙小御衣を漫し。天小悲し地小歎。は道あぐれさせぬ。局女房達も涙小搔昏か。種々小練ゆらせ。有果は事か。御送葬の儀式嚴重小。繕ひ。遂小一堆の凄り主とたり。世小縁圍の常圍小。人々チあやむ。非情草木も亦露くと覺れたり。新院ハ此時を得。我身再ハ帝位を踐り。さうとハ御子重仁親王を帝位小即らる。と年来の御爵憤をも亦志。御心中小伊勢兩宮加茂石清水を祈らせむ。待結させ御坐せり。朝庭の百司百官も皆ち有。死事小。法皇も深死御歎。沈ませぬ。天下一日も主なく。ハ叶はぬ。帝位を重仁親王小。高とぐれ。御外か。其御色月々え。女院ハ世小。死事小思召。信西入道ハ密小招。何更。密を小示。合せむ。其翌日信西本院の御所へ参候。左右の人を拂ひ。後一個の匣。法皇の御前。置眉。髪。奏。臣昨日御所へ参内。の飯路揚

勅刀司會前

二十

明門を通りいひし地中より怪気立昇りし潜小堀穿せし此箱成り  
 出し四隅を釘附し引放し夜明けの雛形小體仁の二字成書し  
 五輪小釘を刺し入置たり。是終ゆなく帝成呪咀しなれり。是成りつ  
 考いし心も思ふも當今崩御の砌より新院小諸人賑し入へて  
 恰も嘉節を祝しなると如く世六涼暗ゆく萬事慎みしは新院の  
 御所小聊も悼る色なく御慶のたまひいと。と新院御位を當今に譲  
 らせむいし遺恨小思召呪咀しなせむいしはねろ。か多大事怪忽小羨  
 なるべし小を侍るれども臣が愚意小秘置るれども睿覽小備なり。邪  
 弁成逞うくと奏する。法皇聞食雛形を見せたり。御身の毛堅ち殊小  
 逆鱗はく。扱小體仁が崩し新院の所為小究り。急死武士小命し新  
 院を捨ふ。土佐小基隆小すれ遠流の汝汰し。其惡事小加誓せし者も  
 と僧俗を嫌つと重く刑とすと敦園荒く宜ひされ信西大の是を制し

なり。且之ハ狂々しれ勅旋ゆる候ふ。慥小新院乃御所為しも定り  
 くいし。さる荒々しれ御政敗をわしむ。新院す如何なる義を思ひ世  
 乱き民の歎れと成ひ之も量る。只うろろ我知る。躰小新院  
 乃御行迹成窺ひし愈隱謀乃御企し。まさむ。其時左も右も計しせむ  
 と練もふふと法白も流石脚子のうかれ思しと思召中も又御慈愛  
 乃御心も出来く。信西が練小任せ事穩使小なり。いぬ。されも重仁親王  
 を御位小即させむとの御心愛く。雅乃即位せり。と御心迷ひ女院信  
 西小召まき。蜜小御商議あるふ。女院類小新院乃御令弟四宮推しを  
 帝位小勸もせむ。信西も其尾小付四宮乃御行迹人君の機小合ひ。と  
 只官称譽し俱小勸も奏し。多ふ。法皇も御心決し。遂小王位を四宮小  
 定り。入柳此四宮と中も故待賢門院各璋子權大納言乃御腹小降誕し。新  
 院と一腹の御兄弟ゆ。美福門院乃御為小。小御継子なれども重仁親

力刃圖會前

十一

王の王位小即... 嗚呼是何なる世の中... 天照皇大神より継躰連綿... 天津日嗣の宝祚定を三公九卿列席の上... 手残及むが如た法皇の睿慮... 形も女院と信西の悪計... 武臣朝推を奪大乱の萌かり... 後ふとかりひ合され...

宇治左府新院勸謀叛條

程かく其年も暮る... 心頼小樂之思百々御望叶... 由綱由切景一御心地... 前乃御前憤百倍... 合詔録... 重仁を一度帝位小即むを止...

我思立せむ御理... 年四月廿七日改元有... 違例ゆく假初乃... 御愁傷の積小... 碩徳小を勅を下... 癒の御祈願と... 日と小鳥羽乃... 悼すひらふ九五北... たるま一御身乃...

あふりも難く常かた風小誘りまゝ一朝の露と消あひしる惜多くは御  
 更しく。當今後白河院をもちまはり三公九卿百司百官歎た悲まほ一天  
 極暮る日月光を失ひし心地一ひ下萬民を只父母を亡ひし増く況  
 女院の御歎も如何をや。去年の秋と十歳と初あひし皇子近衛院の別  
 まあひいも御衣の乾くまもかれふ。今又比目の御契浅うね法皇小後ま  
 めくむも嫉妬好悪の心も歎た小弱王果世我無端を恨あひまろ茲小  
 其比宇治左大臣頼長公とせえし。知足院禪閣殿下忠実公の三男あゝの時  
 ろ關白法性寺大納言忠道公の御舎弟なり。天性濶達大量ゆ。王佐の  
 才成懐たあひし。兄忠道公の詩歌管絃の道小長ト。手跡不堪能なる  
 を密小殿に。それ詩歌書画の小技と太平雅乃器物や。朝政を正し万  
 民を安んじまろ。要技なると苟も朝廷の忠臣と。是れ小耽り嗜む  
 りと。只礼義を重んじ。聖賢の道を学びく。治國平天下の要を旨と

と。下とく。若冠の頃より博士小納言入道信西を師と。普く聖經賢典  
 を学ば。天性の俊才かれむ。一ひ度々十ひ察し中然叩く。兩端を  
 知りし程ふ。し。信西の舌を巻く。歎たまろ。度々なり。頼長学ま  
 僅四年。信西が秘する。温良を悉く散たあひし。信西  
 惘然と心中ふ思まろ。此人の奇才我能及ぶ。此上弥切磋の  
 功を積む。遂に我名譽を此人のより小奪り。我身君臣の義入こと  
 心然と。不如言たり。其心成矯。せ。学業成怠。せ。あ。其  
 折成規ひ。一時信西宇治殿へ侍候。四方八方の物語の次。不斗亀ト  
 と易ト。勝劣議論ト出。信西易トの方勝まり。し。左府ハ亀トの  
 方勝まり。と。互に互に和漢の諸書。引故事と。挙げらひ。問答。數刻。及  
 ひ。遂に信西説。大ら。無念。中。なり。感嘆。誠。小君  
 の博學。廣才。愚老。か。王政を依け。朝家。成。補佐。し。小

余りあり。此上御宇文成勤り属すむ。却て辟する御心生す。自然御身  
 の災成穢し。あふなり。今ハ字業中是れよりゆく止す。せむくと倭音を以  
 稱美し。頗る宇治殿を退出する。弥忌悪心。弥増り。鳥羽上皇の御  
 前へ出る。毎小頼長公の行迹を誹謗し。やると。彼人聊ら文学致自負し。  
 兄忠道公。然ら朝廷の諸臣を直下し。皆君の御為世の為。おたむ。死程  
 乃才成懐る者一人中。必竟今泰平無敵の世。おたむ。今中。あれ  
 天下の乱出来なむ。頼長の他。朝廷を傷。乱逆を鎮。おたむ。看。おたむ。  
 廣言せし。是偏小君の思。電厚く。去。久安六年。氏乃長者。小補し。  
 引續く。仁安元年。内覧の宣旨を許し。又。撰政。園白を。三公。小内覧。乃  
 宣旨。下。さ。こと。前代例を。と。其。勅。と。諸人。傾。た。や。お。小。重。くり。て  
 な。お。ふ。り。自然。我。慢。心。生。し。斯。荒。涼。の。行。迹。も。出。来。ぬ。と。お。た。む。之。以。後  
 と。彼。卿。の。心。驕。り。成。制。し。む。お。た。む。終。よ。と。不。側。の。珍。事。も。出。来。ぬ。と。お。た。む。

絶奏し。これ。上皇。由。滅。ど。思。召。と。れ。と。お。た。む。と。宇。治。の。成。跡。と。お。た。む。御。心。生。す。  
 今。逆。の。君。竈。何。ら。裏。へ。れ。と。宇。治。殿。も。是。信。西。女。院。と。心。を。合。せ。絶。奏。せ。り。  
 ぬ。な。り。と。早。く。も。推。し。天。晴。時。節。を。待。つ。此。恨。を。報。せ。し。もの。と。内。々。思。ひ。れ。け  
 ま。い。殊。小。新。院。の。御。所。へ。親。し。く。参。り。仕。折。節。八。直。宿。し。御。徒。然。を。語。り。慰。め  
 ら。ふ。と。新。院。も。御。心。小。思。召。企。む。ら。あ。ま。む。と。死。味。方。を。ゆ。り。と。て。別。て。眩  
 しく。り。か。り。む。後。々。ハ。密。々。小。徳。謀。を。仰。合。さ。れ。り。然。る。小。今。年。本。院。出。崩。さ  
 せ。ぬ。心。頼。長。幸。究。竟。の。時。節。到。来。せ。り。と。急。に。新。院。へ。参。候。し。や。ま。れ。り。ハ  
 兼。々。上。り。か。り。君。十。善。の。帝。位。小。備。り。上。皇。乃。尊。跡。を。称。せ。れ。む。上。と。皇  
 子。重。仁。親。王。と。王。位。を。知。召。せ。ぬ。女。院。信。西。ホ。ク。内。奏。小。し。り。何。の。故。由。も。死。曲  
 宮。小。位。を。超。ら。れ。ぬ。御。又。子。と。も。世。小。言。甲。斐。た。り。日。陰。の。御。身。と。な。り。せ。む。ふ  
 こと。偏。ふ。り。の。倭。女。奸。臣。の。毒。舌。より。出。る。処。ふ。れ。ぬ。も。本。院。御。在。せ。り。中。ハ。御。孝  
 行。を。思。召。空。しく。歩。過。させ。ぬ。も。今。既。小。故。院。雲。隠。せ。し。と。上。ハ。君。天。下。の



非義を糾し。今上の御位を下し。重仁親王を室位小即ち何の憚なき  
 是天照皇太神の神慮の叶ひ。世の人望の合義の志に内々御加膳の武  
 士を召ま。年来の御爵胸を閑せ。勸められ。なほ此を  
 過さ。と思召。新院薪小油。洒。大の御喜悅あつ。潜小緒国。武  
 士。召。中。六。判。官。為。義。源。家。乃。棟。梁。子。息。多。多。一。番。味  
 方。頼。と。度。御。使。を。遣。れ。多。多。為。義。如。何。か。ひ。固。く。辞。と。奉。る。を  
 強。く。味。方。小。属。せ。と。重。く。左。馬。權。頭。実。清。が。御。使。と。為。義。が。宿。所。遣  
 一。此。更。何。時。一。世。小。池。京。中。乃。貴。賤。光。若。今。と。や。兵。亂。出。來。る。孩。兒  
 強。く。資。財。雜。具。東。西。小。運。ひ。老。人。稚。子。及。負。く。南。北。小。奔。走。上。下。下。で  
 原。為。義。系。侯。新。院。御。所。條  
 其。頃。六。条。廷。尉。為。義。と。せ。六。孫。王。經。基。り。六。代。乃。孫。八。幡。太。郎。義。家。の  
 四。男。あ。り。武。勇。又。祖。小。劣。ら。と。弓。矢。と。く。二。牙。兒。剛。將。を。り。其。子。息。思。

有。皆。弓。馬。乃。道。小。暗。と。嫡。子。下。野。守。義。朝。二。男。帶。刀。先。生。義。賢。先。達。源。太  
 死。す。弟。三。女。子。四。男。四。郎。左。衛。門。頼。賢。五。男。八。掃。部。助。頼。仲。六。男。八。加。茂。六。郎。為  
 宗。七。男。七。郎。為。成。八。男。八。鎮。西。八。郎。為。朝。九。男。八。源。九。郎。為。仲。各。血。氣。の。若。大  
 將。り。兒。又。為。義。八。齡。ひ。已。七。旬。小。及。不。今。致。仕。心。の。終。小。老。を。養。ひ。朝  
 夕。風。月。を。歌。ひ。多。小。或。夜。の。夢。小。先。祖。より。相。傳。の。計。室。産。衣。薄。金。無。楯。八。龜  
 月。敷。日。敷。沢。深。膝。九。八。領。の。鎧。友。切。鬚。道。切。小。鳥。と。三。振。の。太。刀。を。室。庫  
 小。電。置。々。小。忽。ち。旋。風。吹。き。と。右。の。重。苦。も。四。方。へ。散。行。方。と。成  
 々。れ。為。義。大。小。お。ら。れ。是。を。把。通。と。せ。小。愕。然。と。夢。覺。り。為。義。忙。然  
 と。借。夢。乃。卜。次。考。る。小。甚。り。心。小。々。快。々。樂。ま。さ。か。思。小  
 其。日。忽。ち。新。院。より。御。使。あり。と。報。り。れ。再。び。眉。が。蹙。又。も。院。使。の。入。來。何  
 事。小。や。と。訝。り。俄。小。衣服。を。改。め。御。使。小。對。面。一。敬。院。命。成。承。小  
 院。使。実。清。正。坊。と。中。さ。れ。昔。日。新。院。何。の。御。過。失。も。か。れ。小。美。福。門。院

の内奏小依く王位を削らるる僅三才なる近衛院小室位を超られぬ也。天その不義を對し玉ひ近衛院崩御有し上、新院を重祚させらるる。さるるに、この宮重仁親王を御位小即ち重祚せられ、再度女院信西亦法皇(感)文の中あまを武内ありぬ四言成。天下の至とあり玉ひ、頗る新院憤り思りぬ。されども故院御在世のあひまを、御親子の礼を重んじ、御爵憤を押し、月日を送り玉ひ。然るに法皇登遐の上、新院天下の僻事、御位有り、有ん、思ふこと存在。先達より度々御位を招れ玉ひ、事左、右小託く、院泰せられ、依て再四某をり、おきまゝに處なり、速し院泰し、御頼も小應せられ、いと申され、為義とて、依て、身不肖の為義、殊小老表仕、物り用小を、く、廢者を、人々、思ふ、廢る、御使身、小、の、面目小、去、な、仙洞晏駕、し、く、あ、二月、を、過、い、さ、る、予、は、動、し、民、を、煩、せ、玉、ひ、と、恐、な、く、御、憤、を、免、御、行、條、あ、り、又、母、の、喪、

小三年、齒、見、さ、と、と、を、や、い、さ、り、と、御、憤、は、ま、ま、さ、び、も、涼、園、乃、中、追、福、作、善、の、御、言、あ、る、と、い、ふ、現、在、月、袍、の、當、今、成、傾、け、玉、ひ、の、御、企、を、天、魔、乃、所、為、く、し、思、い、周、り、泰、伯、三、度、國、家、を、弟、乃、王、季、小、讓、里、迹、を、隱、し、至、德、の、登、呂、成、萬、代、小、殘、一、免、道、推、即、子、と、兄、皇、子、小、帝、位、成、勸、し、り、自、裁、し、孝、弟、を、百、世、小、示、し、玉、ひ、と、い、ふ、女、院、信、西、小、御、恨、乃、糸、中、一、ま、と、も、そ、れ、を、御、忌、景、く、罪、成、糾、し、玉、ひ、小、難、く、中、妨、ぐ、べ、免、院、を、宇、治、乃、左、府、も、平、日、小、親、く、泰、を、玉、ふ、り、博、学、廣、才、の、頼、長、公、を、不、側、乃、御、企、を、風、練、り、玉、ひ、さ、ら、も、不、審、小、い、し、色、成、正、さ、く、ま、れ、る、小、実、清、ま、推、及、し、流、石、と、武、家、乃、棟、梁、を、あ、り、く、中、さ、る、知、悉、く、理、乃、至、極、な、り、去、り、君、乃、御、企、も、無、據、御、事、小、や、免、道、殿、から、臣、下、乃、練、を、御、許、容、り、自、他、も、多、年、の、御、爵、憤、を、暗、し、玉、ひ、の、御、事、な、れ、も、善、惡、も、小、君、小、從、く、臣、下、乃、乃、以、已、吏、を、得、む、御、加、辱、中、と、と、く、強、を、捨、弱、を、扶、る、を、勇、士、の、常、と、も、何、卒、是、を、非、小、曲、て、御、

味方小恭れい但貴切先達君御在位の中將軍宣下望やされけ  
 る公卿障る吏有御免許なるを遺恨小恭れい度々御免許成辭退  
 別事成物憂みの辭退せらるやと難と為義完示と才突是吏  
 新し仰成承りい孔子成事不説遂事不練既往不咎と親と  
 為義荀源家の惣領る身あ。奈何と女童の。通ふ過去事  
 成念と仕る最先達老後のみ出小將軍宣下成願ひされい。勅  
 許なり其後祖又頼義が任國かれ伊豫守成願ひもまも。地下の檢非違  
 使より豫列拜任の例を。許されい。又又義家が任國成陸奥守を望  
 中い。彼國守る者。汝が家あ先蹤不吉なり。御免なり。加之末子八  
 即為朝筑紫。我意の働あり。為義が檢非違使を解官させし  
 ホと。聊天恩薄たふ似い。某ふ。君成恐なる。心毛頭い。其澄

迹先達内裏より度々召して。困く辭退仕り。恭向仕る。さ  
 少くも察し。且。愚息義朝内裏へ。参れ。又。恩愛の情。引れ。や  
 せん。御疑。猶。サ。昔。弓。箭。の家。小。生。者。義。小  
 依。と。又。子。弟。敵。々。なり。銚。尖。を。事。珍。け。只。為。義。内。裏。の  
 召。小。也。意。せ。院。の。御。味。方。仕。る。別。義。小。其。已。不。齡。七。旬。小。傾。れ  
 強。ら。ぬ。也。言。え。ど。重。た。少。物。も。振。る。也。不。逆。也。墓。を。御。用。小。さ。却  
 老。さ。さ。ひ。若。殿。小。足。手。さ。ひ。心。苦。く。双。方。も。御。辭。退  
 中。義。小。去。か。言。甲。斐。れ。某。人。か。ま。く。思。召。度。々。御。召。成。同。辭。仕  
 ら。先。々。所。望。の。達。せ。る。を。遺。恨。小。持。其。義。朝。と。敵。々。と。な。し。を。い。ひ  
 と。参。ら。ざ。り。か。ら。め。と。君。成。り。人。々。の。さ。げ。と。み。ん。も。持。惜。り。愚。息。の。中。八  
 即。為。朝。幸。ひ。の。頃。日。筑。紫。より。上。京。罷。在。い。を。渠。を。某。名。代。り。御。味。方。小  
 進。せ。い。某。が。子。の。事。を。自。負。仕。る。鳴。呼。が。り。為。朝。一。人。院。の。味。方

仕るに自余の兵十萬騎の中勝れ一に管其が義息免を願ふりては固  
 く辞退みどおつたる実清すこやされど賢息為朝の武勇絶倫なると  
 大寺堂もよく知れ御味方に進せられんま何よりの幸ひなり然れども  
 流石不敷度の院宣成一度も院希せむと居ながら御辞退せられんこ  
 れがれお似たり。下官とより白河御所へ参候し。左も右も御辞退  
 不及をま  
 りとやされど今六為義も當座の理お押も已事成得む。子息四郎左衛門  
 頼賢五郎掃部助頼仲六郎加茂為宗七郎為成八郎為朝九郎為伸以上六人  
 を召具し。実清と同道し。白河殿へ参向し。新院珠小御使脱淡く  
 御簾近く召き御懇の院命の上即時お近江國伊庭庄美濃國音柙庄を  
 賜り。即ち判官代小補し。上北面小候とせし。能登守家長をりて仰  
 下とて猶當座の御引出物として代々御秘藏あせらる。鶴丸の御劔を  
 ぞ下されまか御此鶴丸の宝劔と申八往昔白河院神泉苑小御幸なり。御

遊樂の後少く鶴成使を睿覧あせられ。珠小逸物とせし。荒鶴何  
 う二三尺許りや有くと見ゆ物成被上は落。被上は落とて數度小及  
 ふゆと。主上をり。當座小在の公卿怪と見ゆ。処小遂小合て上り。り  
 人々是成把く。乃多小長覆輪の太刀かり。これを緒人奇異の思成り。主上  
 も不側小思召。還御の後磨せ。御覧ある。吉家と申銘あり。渠ハ三条小  
 鍛冶宗近の子也。又小方らぬ名道なれ。二方を天下の重宝とせし。鶴丸  
 と劔銘を号させ。御秘藏有。後小鳥羽院傳。きせ。御古院。新  
 院へ進。させ。ひ。靈劔なる。今。為義。賜り。り。絨小當座の面  
 目家の規模。と。羨。ぬ者。なり。り。り。

木曾義仲勲功圖前編卷之一畢

